



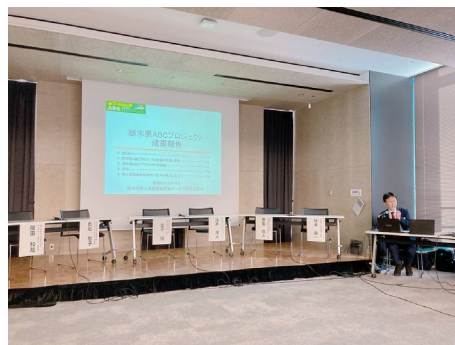
栃木県ABCプロジェクト 成果報告会実績報告

1. 成果報告会の概要

- 会議名：栃木県ABCプロジェクト成果報告会「自動運転バスを語ろう@とちぎ」
- 開催日時：令和6（2024）年3月18日（月） 15：00～17：00（120分）
- 開催場所：ライトキューブ宇都宮 4階小会議室
- 開催目的：
 - 栃木県ABCプロジェクトにおいて実施してきた実証実験等の取組成果を報告し、自動運転移動サービスの現状と課題を共有することで、将来的にサービスの実用化を目指す事業者や自治体の自動運転移動サービスに対する理解の深度化、機運の醸成を図る
- 開催内容：
 - 開会挨拶
 - 栃木県ABCプロジェクト成果報告
 - パネルディスカッション
「栃木県の公共交通への自動運転システムの導入にむけた展望」
 - 閉会挨拶
- 成果報告会の様子



▲開会挨拶



▲成果報告



▲パネルディスカッション



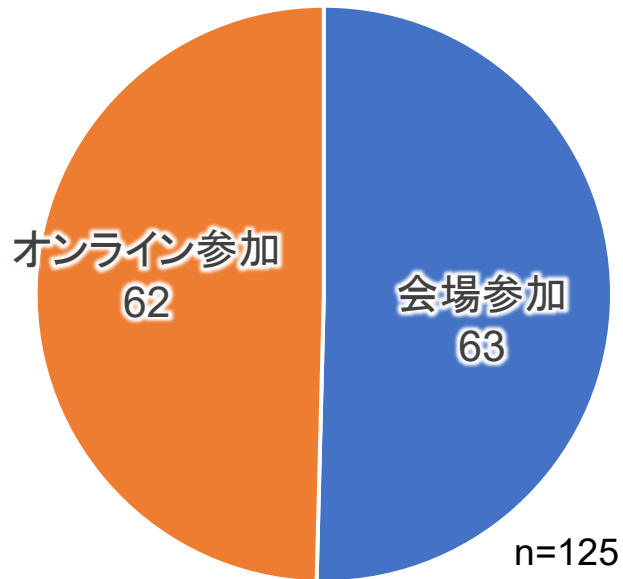
▲会場の様子

2. 成果報告会の参加実績

■ 成果報告会には会場参加、オンライン参加を合わせて、計49団体、125名（会場：63名、オンライン：62名）が参加した。

■ 参加形式

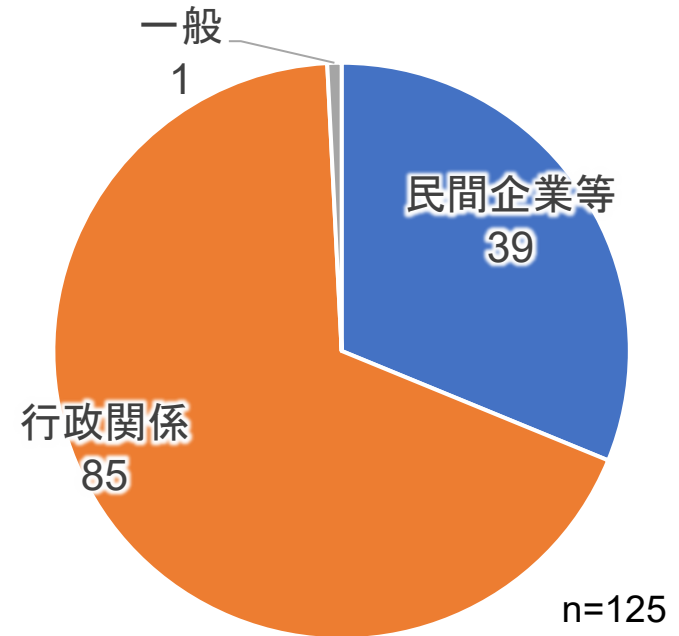
会場参加63名、オンライン参加62名



■ 会場参加 ■ オンライン参加

■ 参加者の所属

民間企業等39名、行政関係85名、一般1名

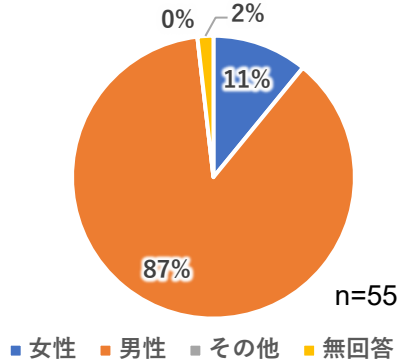


■ 民間企業等 ■ 行政関係 ■ 一般

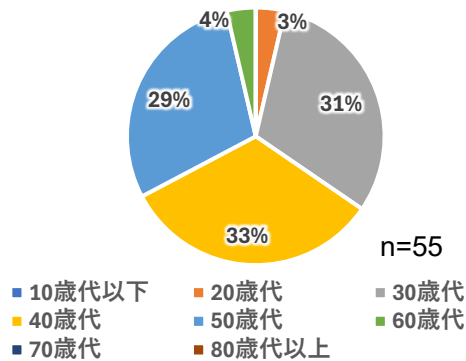
3. 参加者アンケート (1) 回答者属性

- 成果報告会終了後に、参加者に対してアンケートへの回答を案内し、55件（回収率：44%）の回答を得た。
- 地方公務員からの回答が約6割、民間企業等からの回答が約4割であり、全体の約7割は栃木県内の居住者、約7割は自動運転バスの乗車経験がある。

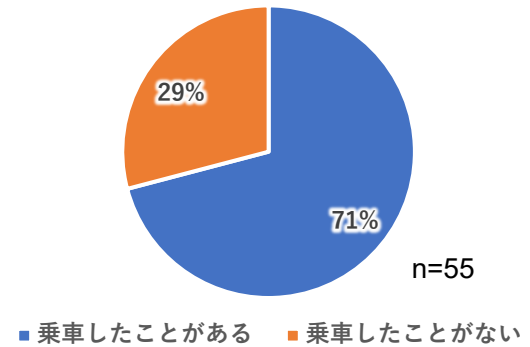
■ 性別



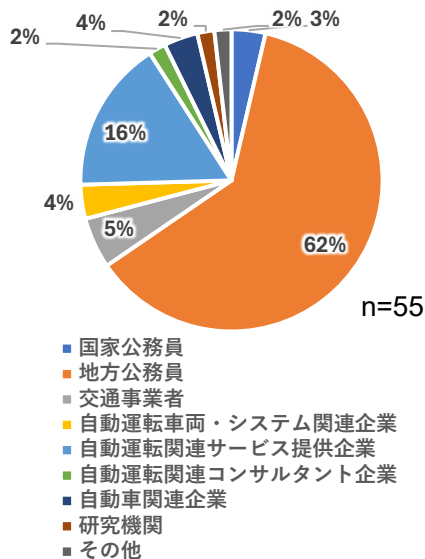
■ 年齢



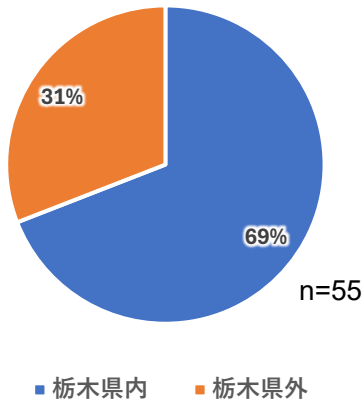
■ 自動運転バスの乗車経験



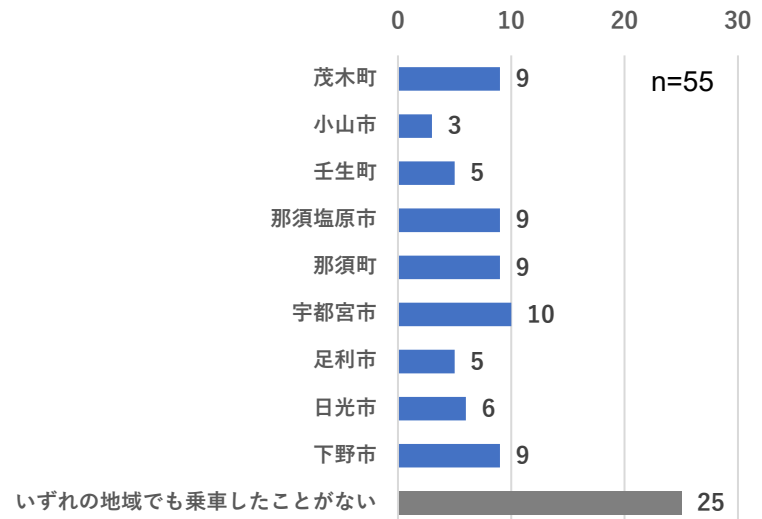
■ 職業・業種



■ 居住地



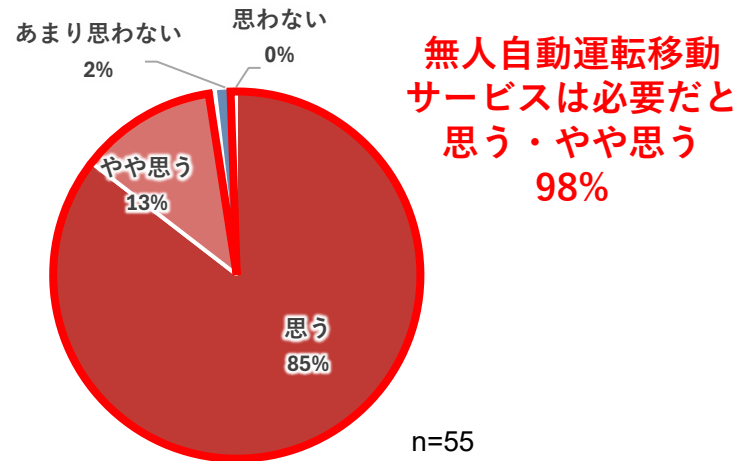
■ 乗車経験のある地域（複数回答可）



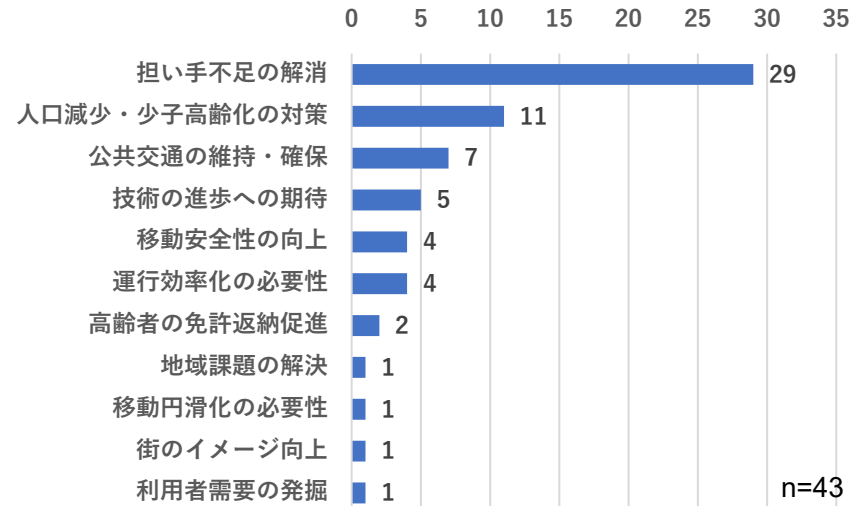
3. 参加者アンケート (2) 将来的な無人自動運転移動サービスの必要性

■ 将来的な無人自動運転移動サービスの必要性についてはほとんどが必要だと「思う・やや思う」と回答し、その理由として人口減少・少子高齢化社会における担い手不足の解消や公共交通の維持確保に対する期待に関する意見等が挙げられた。

■ 将来的に無人での自動運転移動サービスは必要だと思いますか。



回答理由（思う・やや思うと回答した方）



■ 主な回答理由

【思う・やや思う】

- 少子高齢化、労働人口の減少に伴う各種公共交通などの移動手段の確保、輸送関連事業などへの対応が必要
- 高齢者の自動車運転を抑制するためには公共交通の充実が必須だが、運転に携わる労働人口の減少は止められないため
- 人口減少、着実な技術の進歩により「必要」というより「必然」になると思うから
- まちのイメージアップのため、免許返納者の増加のため
- 2024年問題、過疎地での公共交通サービス維持のためには必要だと考えるため

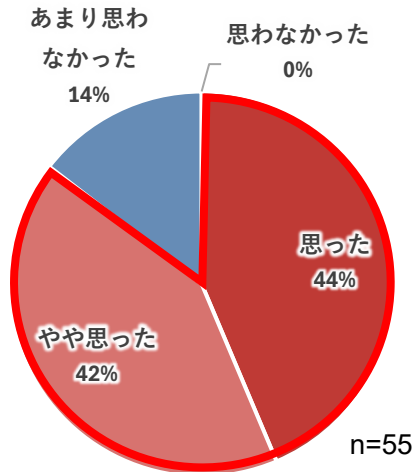
【あまり思わない】

- 無人にするハードルが高すぎるため、当面はドライバーが必要

3. 参加者アンケート (3) 自動運転バス本格運行の実現可能性

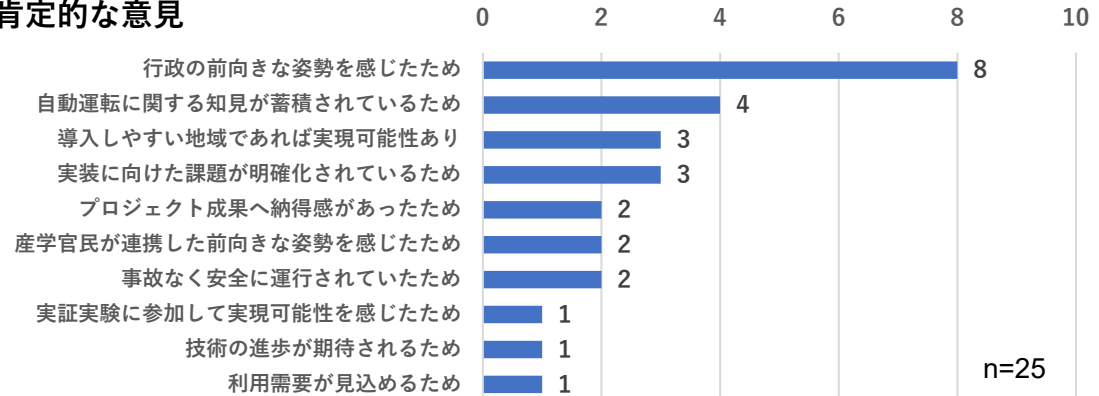
■ 自動運転バス本格運行の実現可能性について約9割が実現可能と考えているが、課題としては利用者側の理解醸成や事業性の確保、技術の進歩の必要性等が挙げられた。

■ 栃木県内における自動運転バス本格運行は、実現できると思いましたか。



本格運行が実現できると
思った・やや思った
86%

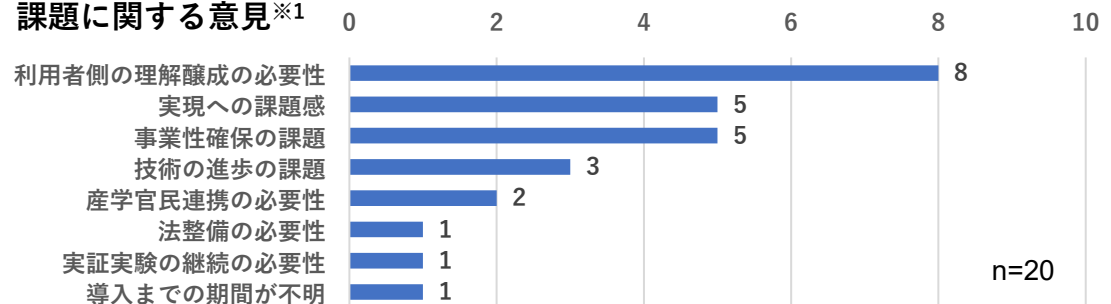
肯定的な意見



【主な意見】

- 担当者の熱意が高い
- 県を挙げて産官学民の総意を集結して取り組んでいるため
- 事故もなく運行できていたため

課題に関する意見※1



【主な意見】

- 令和7年度に無人の自動運転バスはまだできないだろうと感じた。有人でも補助金を活用してやるところが出てこないと感じる
- コストの問題が解決していない
- 路上駐車や停留所の人物を認識できず、結局運転手やそれ以上コストのかかる技術者が必要

3. 参加者アンケート (4) 自動運転移動サービス導入に必要な取組

■ 公共交通への自動運転移動サービスの導入のために必要な取組としては、地域の理解醸成や技術の進歩への期待等の意見が得られた。

n=35	0	5	10	15	公共交通への自動運転移動サービスの導入のために必要な取組（主な意見）
広報活動による地域の理解醸成				12	<ul style="list-style-type: none"> ● 芸能人など有名人を活用して、有用性について広めてもらうこと。子供たちやお年寄りを対象としたイベントの実施 ● 「なぜ必要なのか？」を地域住民へ理解してもらうことが必要
新技術の活用・技術の進歩		5			<ul style="list-style-type: none"> ● 自動運転技術のコスト低減のためのさらなる技術開発 ● 自動運転システムに全てを押し付けないこと。システムだけで完璧にしようとするといつまでも時間がかかってしまう
連携体制の構築		5			<ul style="list-style-type: none"> ● 警察や自治体の協力体制、地域住民等の協力 ● 官学民連携の継続とさらなる強化 ● 事業者や自治体だけでなく、地域にある企業を巻き込んだ共創の枠組みが必要
自動運転バス走行環境の構築		4			<ul style="list-style-type: none"> ● インフラ整備として自動運転を整備していく仕組みが必要 ● 路上駐車をさせない取り組み ● 自動運転のための道路等のインフラ整備
公的な支援・補助		5			<ul style="list-style-type: none"> ● 車両導入に対しての行政支援 ● 自家用車所有の制限、運転免許証返納の年齢固定化
自動運転バスの乗車機会の創出		3			<ul style="list-style-type: none"> ● 長期間にわたる自動運転の実証実験 ● 実証実験を今後も継続することにより、自動運転バスの認知度向上を図ることが重要
まちづくりとしてのあり方検討		2			<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通とまちづくりのあり方の話を並行して検討することが必要 ● 自動運転が向く路線と向かない路線の仕分けをするといい（路線の道路事情や利用者層の分析など）
他のサービス・公共交通との連携		2			<ul style="list-style-type: none"> ● 導入することでコスト以上の価値を高める必要があるため、MaaS等のサービス連携や観光整備が必要 ● 自動車の利便性に近づけるため、自動バスも含めた複数の公共交通網の連携が必要